

★ _____ ★
☆☆★ いわて マナビィ マガジン ★☆☆
☆☆ No.114 2016. 6. 27. ★☆☆

★ _____ ★
***** I N D E X *****

1. センター便り 『評価・検証の考え方・取組の方向性』
2. 教振なう！ 『スマホに子守りをさせないで』
3. 編集後記 ～ピエロが行く！～

★ _____ ★
1. センター便り 『評価・検証の考え方・取組の方向性』

★ _____ ★

今年度の国庫事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」（国庫委託事業「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」及び国庫補助事業「学校・家庭・地域連携協力推進事業補助金」）においては、文部科学省に評価・検証の取組と結果の報告を行うこととなっています。

県事業では、子どもの学びに関わる地域の有志指導者や事業推進を担当する市町村職員の研修会がその対象となり、5月24日に開催した第1回岩手県評価・検証委員会において「評価・検証の考え方や取組の方向性」を提案したところでした。7月1日開催の第2回岩手県評価・検証委員会では「評価の取組の進捗状況」の報告する予定です。

事業をどのように評価し、その効果をどう判断するかということについては、従来から社会教育分野において課題となっているところです。そこで県では、研修事業の参加者に対し事前調査（実態把握）、当日調査（研修の満足度・研修内容の習得度）、事後調査（実態把握＝研修内容の活用度）を実施し、定量的な評価を行うこととしています。

さらに、成果指標と目標値を下記のとおり定め、その達成に向けた努力をしていくこととしています。

- ①研修事業の目的の達成度（当日調査；肯定的回答80%以上）
- ②研修内容の活用度（事後調査；肯定的回答80%以上）
- ③参加者の変容（事前調査と事後調査の比較；肯定的回答の増加）
- ④参加者の満足度（当日調査；A評価80%以上）

市町村事業は「放課後子ども教室」や「学校支援地域本部事業」等、通年の事業ではありますが、評価・検証の考え方は基本的に同様ではないかと考えます。参考にさせていただけたら幸いです。

★ _____ ★
2. 教振なう！ 『スマホに子守りをさせないで』

★ _____ ★

(教ちゃん) 前は、振ちゃんから「教育振興運動推進研修会」の様子を報告してもらいましたが、後半3会場がまだ終了していないので、今日はスタジオからわたくし、教ちゃんが教育振興運動の現状を報告します。

(振ちゃん) えっ？今日はぼくの出番はないの？

(教ちゃん) 「情報メディアとの上手な付き合い方」に関する講師依頼が生涯学習推進センターに殺到しているとのこと。

(振ちゃん) お～い、現場にいるぼくはどうなるの？

(教ちゃん) 6月23日現在、35件の講師依頼をいただいております、うち7件はお断りをしたとのこと。〔理由；センター事業日であること、対象が児童生徒であること〕

(振ちゃん) そうなんだ……。って、ぼくも話したいよ～。

(教ちゃん) 児童生徒に「情報モラル教育」を行うのは学校の先生の役目であり、その先生方の支援には総合教育センターが取り組んでいることから、生涯学習推進センターでは児童生徒対象の講師対応はおこなっていないそうです。

(振ちゃん) ねえ、ねえ。ずっと教ちゃんが話しちゃうの？

(教ちゃん) その他、保育園の「家庭教育学級」で絵本を通した親子のふれあいのお話をする中で、最近の“しつけアプリ”を取り上げながら、スマホに子育てをさせないようにと公益社団法人日本小児科医会の警鐘（リーフレット等を参照）を紹介しているそうです。

★「スマホに子守りをさせないで」のリーフレットはこちら。

⇒ http://www.jpa-web.org/dcms_media/other/smh_leaflet.pdf

★「スマホに子守りをさせないで」のチラシ（A4）はこちら。

⇒ http://www.jpa-web.org/dcms_media/other/smh_poster.pdf

(振ちゃん) 「情報メディア」が乳幼児期の親子のふれあいの時間を奪ってしまうんだね。上手な付き合い方をしなくちゃいけないのは保護者……。ということだね。ふむふむ。

(教ちゃん) 同医会の「子どもとメディア」対策委員である川上一恵院長は、「乳児期にスマホ等を与えると、①本をめくれなくなる、②近視になりやすくなる、③言語発達が遅れ、親子で会話をしなくなる、④親と目を合わせなくなるなどの弊害が出やすくなる」とおっしゃっています。以上、スタジオの教ちゃんからの報告でした。

(振ちゃん) あ～終わっちゃった。今回は、ぼくの出番だからね！

★ _____ ★
3. 編集後記 ~ピエロが行く!~

★ _____ ★
岩手県は一人平均総実労働時間が1892時間で、全国平均より100時間以上長く、1カ月の総実労働時間は158時間でした(2014年毎月勤労統計調査)。東北6県中4県が長時間労働ワースト4(4位青森県、3位福島県、2位山形県、1位岩手県)を占めています。

その日本一長時間労働の岩手県の達増知事が6月18日に「イクボス宣言」をしました。今後、ワーク・ライフ・バランスの実現など県民の働き方の見直しが促されることが期待されます。

この男性の育児参画に理解のある管理職「イクボス」を奨励しているのが、育児に積極的な父親である「イクメン」という言葉を広めたNPO法人ファザリング・ジャパンの安藤哲也さんです。安藤さんは、男性の育児参加を促すためには管理職の意識変革を促し、休暇を取りやすい職場環境をつくる必要があると「イクボス」を奨励しています。

2011年社会生活基本調査によると、「夫の1週間の家事・育児時間」は岩手県が全国第2位でした。その時間は97分。7日で割ると1日あたり14分弱で、全国第2位といっても恥ずかしい話です。

私は、男性による読み聞かせグループ「おどっつあんS」に所属していますが、このグループは『お子さんとどう接したらいいかわからないお父さんも、絵本1冊あればお子さんと一緒に楽しい時間を過ごせますよ。子育てに参画しませんか』を趣旨に活動しています。

達増知事の「イクボス宣言」を機に、お父さんの子育て参画の輪が広がっていくことを期待しています。



このメールマガジンは、県内小中学校、社会教育関係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ [E-mail ; atu-satou@pref.iwate.jp](mailto:atu-satou@pref.iwate.jp)

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口 2-82-13）

編集：佐藤敦士